

勧学かんがく  
(木戸孝允きどたかよし)

驚馬雖遲積歳多 高山大澤盡堪過  
請看一掬泉巖水 流作汪洋萬里波

驚馬どば 遲おそしと 雖いえども 積歳せきさい 多おほければ

高山こうざん 大沢だいたく 尽ことごとく 過すぐるに 堪たえたり

請こう 看みよ 一掬いっきく 泉巖せんがんの 水みず

流ながれて 汪洋おうよう 万里ばんりの 波なみと 作なる

解説 次代をになう青少年に学問に励むべきことを述べたもの。

語釈 ※驚馬Ⅱ足ののろい馬。才能の乏しい人間にたとえる。※積歳Ⅱ年を経る、歳月を積み重ねる。※大沢Ⅱ大きな沼沢地。大湿地帯。※一掬Ⅱ掬はすくう。両手で一すくいするほどのわずかな量。※汪洋Ⅱ海の広々として果てしのないさま。

通釈 いか足のおそい馬でも、倦まずたゆまず、長年月かかって歩み続けるならば、どのような高い山でも大きな沼沢地でも、すべて通過することができる。ほんの一すくいほどの岩間の泉も、絶え間なく湧き出て、流れ流れて、やむことがなければ、ついに広々と果てしない大海万里の波ともなるのである。そのように人も不断の努力を積むことが人切であって、多少の才能などは問題ではないのである。